

1 本校の校訓と教育目標

校 訓： 広く やさしく 元気よく

教育目標： 学ぶ力を身に付け、国際社会に生きる児童生徒の育成

【校訓の趣旨】

平成18年12月に約60年ぶりに改正された教育基本法第2条第1号に規定された教育の目標「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」に沿って、本校の校訓を「広く（知）やさしく（徳）元気よく（体）」とした。

<広く：幅広い知識と教養、真理を求める態度・探求心、主体性>

<やさしく：豊かな情操、道徳心・社会性、認め合い信頼し合う人間関係>

<元気よく：健やかな身体、たくましい心、粘り強い姿勢>

【教育目標の趣旨】

本校は、国際都市名古屋の中心地たる名古屋駅・国際センターのほど近くに位置し、名古屋市の子供帰国児童生徒の受け入れ校でもあり、国際色豊かな地域・学校である。その一方で、「山車、お囃子、からくり人形」といった地域の歴史、伝統文化を大切にする地域でもあり、さらに本校は名古屋市初の小中一貫教育校として児童生徒の義務教育9年間を見据えた教育を行う重責を担っている。

地域や学校の使命、教育基本法第1条で規定された教育の目的、DeSeCo（OECDが組織したプロジェクト）の研究成果である「単なる知識や技能の習得を超え、共に生きるための学力を身に付けて、人生の成功と良好な社会を形成するための概念」をふまえ、教育目標を上記のように定めた。

【学ぶ力とは】

国際化と高度情報化の進行とともに多様性が増した国際社会で、他者の考えを尊重しながら得た自己実現と良好な社会を形成するために必要な課題や変化に対応する能力であり、習得した知識および技能をメタ認知したり批判的思考をしたりしながら活用し、自らの力で探究していく力。

【教育目標を達成するための4本柱】

○ 教科学習の充実

名古屋市で初めての小中一貫教育校で、小中の系統性を重視した指導を行うことで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得をする。そして、各教科でその知識や技能を活用して、「周囲の環境（自然・社会）、他者、自己」と積極的に対話する言語活動の充実を図る。その過程において、個人が深く考え、主体的で自律的な行動につながる学力の伸長を図る。

○ 多文化共生の推進

海外帰国児童生徒の受け入れ校という特性を生かし、育った地域や環境による文化的な違いや、価値観や考え方の違いを認め合い、誰もが、対等で、尊重され、受け入れ合えるような人間性を育む。また、一人一人の違いにかかわらず、それぞれがもつ能力と持ち味を活かしあいながら、地域で共に生きていくという、児童生徒の多文化共生社会の一員であるという自覚を養っていく。

○ 郷土学習の推進

地域の歴史、伝統、文化、行事の学習を通して地域社会の一員であることを自覚する。特に、学区内にある三輦の山車にかかわる歴史、山車、お囃子、からくり人形の構造、それらの継承に力を注ぐ人々などを、総合的な学習の時間、生活科、社会科の授業の中で、地域の方々から学習する。このことで、地域への愛着を高め、よりよい郷土の創造に向けて自己の生き方を考え続ける姿勢と他者の尊厳を認める人間性を育む。

○ 心の教育の推進

人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指し、児童生徒同士のかかわり、異学年交流の縦割り活動、特別支援学級との交流、自然や崇高なもの及び集団や社会とのかかわりなどを通して、児童生徒の道徳性を道徳や特別活動等の授業の中で養っていく。

また、6歳から15歳までの多感な時期の児童生徒と教育相談をして理解を図るとともに、その成長を、保護者、地域、スクールカウンセラー、教職員が連携して支えていく。